

■ 投資対象による分類

国内株式

- 日本国内の株式を投資対象としています。
大型株・中小型株・小型株等の種類があります。

外国株式

- 外国の株式を投資対象としています。
先進国の株式・新興国(エマージング諸国)の株式等の種類があります。

国内債券

- 日本国内の債券を投資対象としています。
国債・地方債・社債等の種類があります。

外国債券

- 外国の債券を投資対象としています。
先進国の債券・新興国(エマージング諸国)の債券等の種類があります。

国内REIT

- 国内のREIT(不動産投資信託)を投資対象としています。

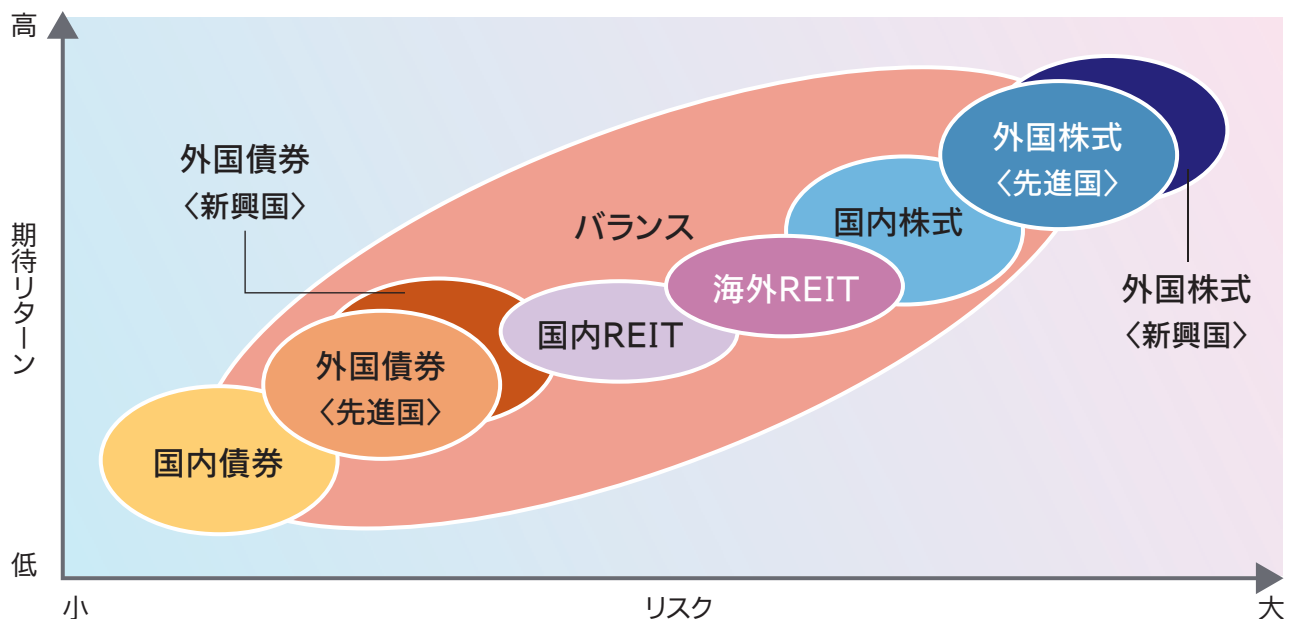
海外REIT

- 外国のREIT(不動産投資信託)を投資対象としています。

バランス

- 上記の国内外の株式・債券などを主な投資対象としています。
各資産のバランスを考え組み合わせて運用しています。

■ 投資対象別のリスク・リターンのイメージ



投資対象によってリスク・リターンの傾向が異なります。例えば、外国株式に投資している投資信託の中でも、先進国に投資する場合と、新興国に投資する場合では、一般にリスク・リターンが異なります。

■ バランスとは

バランスはひとつの商品の中に複数の資産が組み込まれています。リスク・リターンを勘案した組み合わせで分散投資ができます。専門家がリバランスやリアロケーションをおこないながら運用します。

リバランスとは、運用により資産配分に変更が生じたときに、当初の資産配分に戻すことです。

リアロケーションとは、時間の経過もしくは運用環境の変化等により資産配分そのものを変更することです。

■ バランスの種類

バランスは、主に3つに分類されます。

①資産配分固定型 ②ターゲット・デート型 ③リスク・コントロール型

	①資産配分固定型	②ターゲット・デート型	③リスク・コントロール型
資産配分	変更なし	時間の経過により変更	運用環境により変更
特徴	●資産配分は一定に保たれる ●各自のリスク許容度に合った資産配分を選択できる ●資産配分の異なる複数商品が用意されている 【リバランス】	●退職を迎える日をターゲット・デートと想定し、積極運用から安定運用へ徐々に資産配分が変更される ●ターゲット・デートの異なる複数商品が用意されている 【リアロケーション】	●リスクの大きさを一定以下に保つように資産配分が変更される 【リアロケーション】
選び方のヒント	●リスク許容度に合わせた資産配分を選びたい	●年齢に合わせた資産配分の変更をお任せしたい ●自分に合ったターゲット・デートを確認する	●リスクを抑えたい

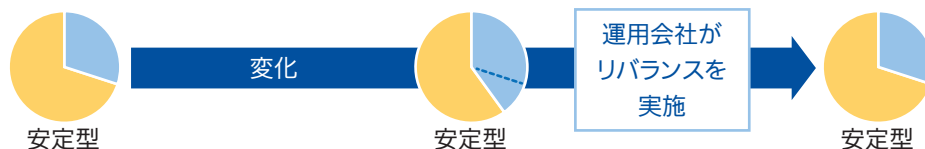
上記に分類されないバランス商品もあります。

① 資産配分固定型

■あらかじめ定められた資産配分を維持するために、定期的にリバランスがおこなわれます。

一般的に資産配分比率の異なる商品（積極型、成長型、安定型など）が用意されています。

〈リバランスのイメージ〉



■時間の経過とともに積極型から安定成長型、さらに安定型へご自身で運用商品を変更することも可能です。

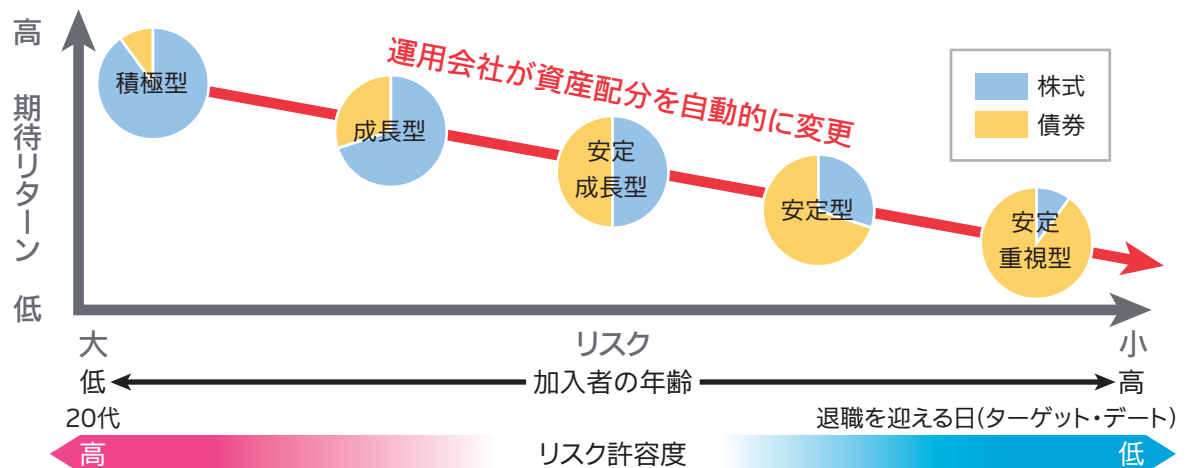
〈リスク許容度に合わせて変更のイメージ〉



② ターゲット・デート型

退職を迎える日をターゲット・デートと想定し、運用会社が時間の経過とともに資産配分を自動的に変更します。一般に年齢が上がるとリスク許容度は低くなるため、徐々にリスクを抑えた資産配分に変更します。ターゲット・デート(ターゲット・イヤー)の異なる複数の商品が用意されています。

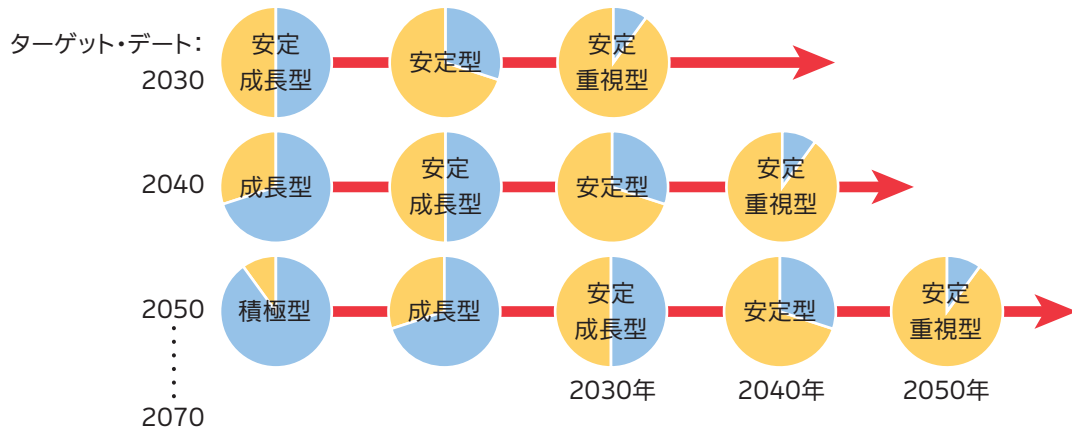
■ イメージ



ターゲット・デート型の投資信託には、商品名にターゲット・デート(例:2050)が記載されています。

■ イメージ

ターゲット・デートの違いによる資産配分の変化の例

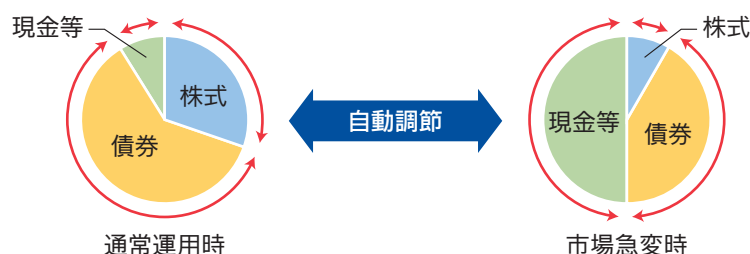


時間の経過とともに2060、2070...のように商品が追加されます。

③ リスク・コントロール型

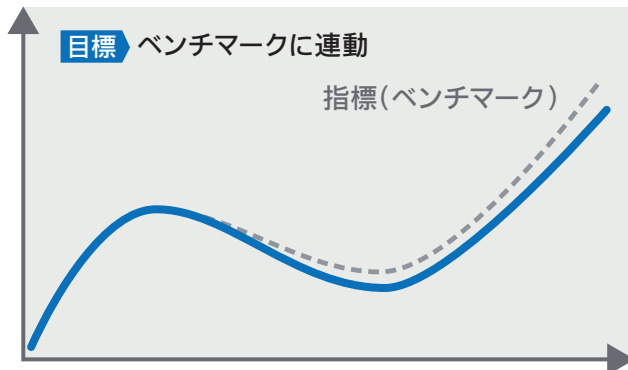
リスクを一定以下に保つために運用環境の変化に応じて運用会社が資産配分を自動的に調整します。例えば、市場の急変時には、リスクが大きくならないように株式の割合を減らし現金等を増やすような運用をおこないます。

■ イメージ



■ 運用手法による分類

■ パッシブ運用



パッシブ運用(インデックス運用)

- 設定された指標(ベンチマーク)の動きに連動した運用成果を目指す運用手法です。
- 指標に採用されている銘柄を指標と同じような比率で保有して、運用を行います。
- 運用成果は市場の動向に左右されます。

〈特徴〉

設定されたベンチマークが同じ商品の場合、ほとんど同じ運用成果となります。商品内容は画一的で、商品ごとの個性は乏しくなります。

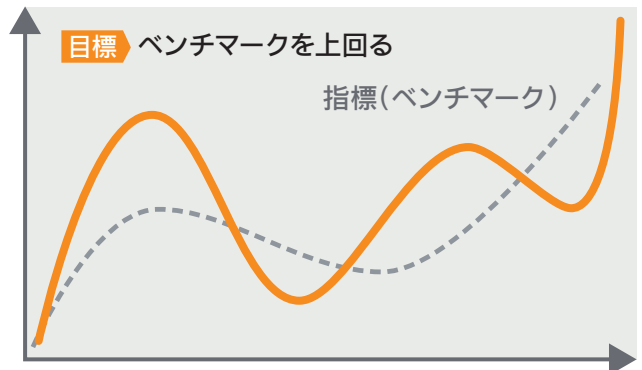
〈リスク〉

一般にアクティブ運用より小さくなる傾向があります。

〈コスト〉

調査・分析の費用はかからず、一般に信託報酬がアクティブ運用よりも低くなる傾向があります。

■ アクティブ運用



アクティブ運用

- 設定された指標(ベンチマーク)を上回る運用成果を目指す運用手法です(下回ることもあります)。
- 専門家(ファンドマネージャー)が独自の調査・分析に基づいて銘柄選定を行います。
- 運用成果は市場の動向に加えて、運用会社の運用力にも左右されます。

〈特徴〉

設定されたベンチマークが同じ商品の場合でも、運用成果は異なることが多くなります。商品内容は様々で、商品ごとに個性があります。

〈リスク〉

一般にパッシブ運用より大きくなる傾向があります。

〈コスト〉

調査・分析の費用がかかるため、一般に信託報酬はパッシブ運用よりも高くなる傾向があります。

アクティブ運用商品の
運用スタイル

アクティブ運用には、バリュー型やグロース型等の運用スタイルがあります。

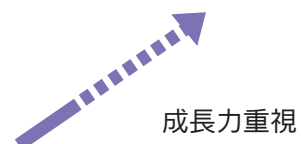
バリュー型運用(割安株運用)

企業の収益力や資産状況等から株価の評価を行い、実際の株価と比較した上で、「割安」と判断した銘柄に投資する手法です。



グロース型運用(成長株運用)

企業の成長性や収益力に注目して、「成長力がある」と判断した銘柄に投資する手法です。



●ベンチマークとは

投資信託の運用における運用目標となる基準のことです。通常、投資対象とする資産の市場全体の動きを表す指標をベンチマークとしています。例えば、投資対象となる資産が国内株式であれば、TOPIX(東証株価指数)や日経平均株価等を指標とします。ベンチマークの設定のない投資信託もあります。

●主なベンチマーク(2022年4月現在)

ベンチマークに設定されている主な指標は以下のとおりです。

国内株式	●TOPIX(東証株価指数)
	東京証券取引所が日々発表している国内株式の代表的な指標です。1968年1月4日の時価総額を100とし、その後の時価総額を指数化したものです。
外国株式	●日経平均株価
	日本経済新聞が算出・公表している指数です。国内株式の代表的な指標の一つで、東京証券取引所プライム市場に上場する銘柄から選定された225銘柄の平均株価です。
	●MSCI-Kokusaiインデックス
	モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)が算出・公表する、日本を除く先進国で構成された時価総額株価指数です。
	●MSCI-Worldインデックス
国内債券	モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)が算出・公表する、日本を含む先進国で構成された時価総額株価指数です。
	●MSCI エマージング・マーケット・インデックス
	モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)が算出・公表する、新興国で構成された時価総額株価指数です。
	●MSCI All Country World インデックス
外国債券	モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)が算出・公表する、先進国と新興国で構成された時価総額株価指数です。
	●NOMURA-BPI総合
	野村證券が算出・公表する、国内で発行された公募債券の市場全体の動向を表す投資収益指数です。
国内REIT	●FTSE世界国債インデックス
	FTSEラッセルが算出・公表する、先進国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均した指数です。
海外REIT	●JP モルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス
	JPモルガン・セキュリティーズが算出・公表する、新興国の債券市場の動向を表す代表的な指数です。
バランス	●東証REIT指数
	東京証券取引所が算出・公表する指数です。 東京証券取引所に上場しているJ-REIT全銘柄を対象とした時価総額加重平均型の指数です。
	●S&P先進国REITインデックス
	S&P ダウジョーンズ・インデックスが算出・公表する、先進国のREITの動向を示す代表的な指数です。時価総額加重平均型の指数です。
	●合成ベンチマーク
	個別資産ごとに定めたベンチマークをバランス商品の基本アセットアロケーションで加重平均し算出します。